11)チモシー新品種候補「北見16号」、「北見18号」

北見農業試験場　牧草科

1.はじめに

牧草は1戸当たりの栽培面積が広く収穫作業が1か月以上にも及ぶため、刈り遅れによる栄養価の低下などが問題とされてきた。北見農試ではチモシーの主流である早生品種に加え極早生品種「クンプウ」、晩生品種「ホクシュウ」を育成してきたが、更に各熟期の品種を揃えるべく中生品種と斑点病抵抗性並びに多収な品種の育成を進めてきた。

2.育成経過

「北見16号」は、斑点病幼苗接種検定、個体選抜及び多交配後代検定から、斑点病抵抗性と主要形質に優れた合成親7系統を選抜したものである。また、「北見18号」は、個体選抜と多交配後代検定から出穂期、収量及ぴ再生性などの主要形質が優れた合成親10系統を選抜したものである。

3.特性の概要

「北見16号」は標準品種「ホクセン」と比較して、直立型で1番草は草丈が低く、茎は細くて多い。熟期は「ノサップ」と「ホクセン」の間の中生の早である。斑点病には「ホクセン」より強く、すじ葉枯病と黒さび病には「ホクセン」よりやや弱い。越冬性は「ホクセン」並である。耐倒伏性は「ホクセン」よりやや弱い。永続性とアカクローバとの競合力は「ホクセン」よりやや優れる。収量は「ホクセン」よりやや多く、特に2番草が多収である。

「北見18号」は標準品種「ホクセン」と比較して、直立型で1番草は草丈が低く、茎は細くて多い。茎色、葉色が「ホクセン」より淡い。熟期は「ホクセン」と「ホクシュウ」の間の中生の晩である。斑点病には「ホクセン」よりやや強く、すじ葉枯病には「ホクセン」よりやや弱い。越冬性は「ホクセン」並かやや優れる。耐倒伏性は「ホクセン」並かやや強い。永続性とアカクローパとの競合力は「ホクセン」よりやや優れている。収量は「ホクセン」より多く、特に2番草が多収である。

4.普及態度

両系統は全道を対象に普及する。両系統とも年間2回程度の採草利用が主体で、放牧利用もできる。また、両系統の競合力は「ホクセン」より一優れるが、「ノサップ」ほどでない。

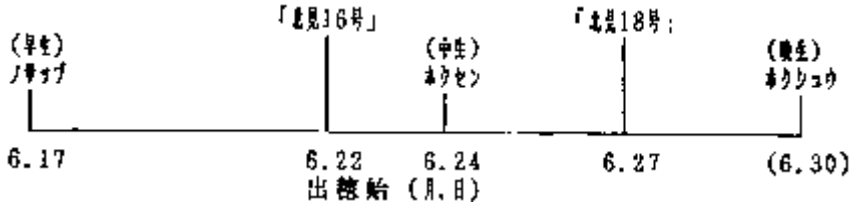

図1　　北海道における「北見16号」「北見18号」の収穂始

注)「ホクシュウ」の出穂始は推定値である。

表1　　形態的特性

品種 系統名	草丈			葉長	葉幅	茎の太さ	茎数	出穂割合	草型	穂長
	早春	1番草	2番草							
北見16号	39.3	129.9	86.3	27.8	1.2	5.2	5.7	8.7	3.5	14.1
北見18号	41.5	131.0	70.3	31.1	1.3	5.6	5.0	7.4	3.7	16.0
ホクセン	37.2	138.7	68.2	30.8	1.3	6.2	4.9	8.0	5.3	15.4
ホクシュウ	44.5	116.8	64.2	31.2	1.2	5.3	7.2	4.3	3.9	17.5
ノサップ	40.5	136.1	97.2	26.6	1.2	5.7	5.0	8.8	3.2	13.3
備考	cm			cm	cm	1：細 9：太	1：少 9：多	1：少 9：多	1：直立 9：匍匐	cm

表2　　生育生態的特性

品種 系統名	罹病程度			耐寒性	越冬性	倒伏程度	再生	永続性	チモシー 割合	放牧利用	
	斑点病	すじ葉枯病	黒さび病							草量	利用率
北見16号	1.8	2.3	1.6	強	1.7	2.8	2.5	6.1	49.9	108.9	44
北見18号	2.1	2.2	1.3	強	1.6	2.3	2.6	5.2	52.0	103.9	42
ホクセン	2.9	2.1	14.4	強	1.7	2.5	3.2	3.1	21.6	99.4	39
ホクシュウ	2.6	2.0	1.7	強	1.5	1.7	2.8	6.1	40.5	100.6	42
ノサップ	2.2	2.3	1.7	強	1.6	3.2	2.1	4.9	78.1	101.8	41
備考	1：無または微 5：甚				1：良 5：不良	1：無または微 5：甚	1：良 5：不良	1：極不良 9：極良	3年目の 混生割合(%)	利用2,3年目 の平均値(kg/a)(%)	

注)チモシー割合はアカクローバとの混播栽培における年間合計収量に対するチモシーの割合。

表3　　乾物収量の調査結果

品種系統名	根釧農試	北見農試	新得畜試	天北農試	北海道農試	全道平均	東北平均
北見16号	122	106	114	107	110	112	97
北見18号	119	102	107	110	104	108	99
ホクセン	(226.4)	(206.8)	(261.6)	(226.5)	(252.3)	(234.7)	(392.9)
ホクシュウ	101	92	100	93	102	98	90
ノサップ	135	109	116	108	111	116	104

注)「ホクセン」の値は実収量(kg/a)で、その他は「ホクセン」に対する百分比である。
北海道の値は利用2，3年目の合計、東北平均は利用2～4年目の合計で、
青森畜試、山形畜試及び東北農試の3場所の平均値である。

目次へ戻る